

令和3年度 第1回スクラムスクール運営協議会 記録

令和3年5月20日(木) 19:00~20:10

会場：佐倉地区センター「さくらんぼ」

進行：学校教育課（窪野主席指導主事）

1 教育長あいさつ（河原崎 全 教育長）

今年度も3か月が過ぎようとしている。この間、市内では大きな事件や事故の報告もなく、順調にスタートが切れている。これも学校中心に、御家庭、また地域の皆様方の御協力のおかげだと思っている。

今年も再び、コロナの感染・流行が高まってきた。昨年から「誹謗中傷というようなことは絶対に止めましょう」ということを呼びかけてきた。その結果としてそういうことが起こっていないというのは本当にありがたいことだと思っている。

このスクラムスクール運営協議会は、8年目。年度末、『早寝早起き朝ごはん』の推進が萩生田文部科学大臣から表彰を受けた。市が一丸となって取り組んでいただいたおかげだと思っている。これを契機に更に続けていくことに意義があると思う。『早寝早起き朝ごはん』は、子供たちの生活習慣の安定があつてのこと、ということが伝統になっていってほしいと思う。御協力をお願いしたい。

2年前から『ゲーム障害・ネット依存の防止』ということにも取り組んできた。大学の先生から講義を受けたり、各学校で手だてを考えたり等、活動が始まっている。

派生した動きとして、御前崎市内の小中学校の養護教諭の研究会で、子供たちの睡眠について考えていただいた。本日、子供たちの睡眠の実態調査について発表をしていただく。この会議で話をするだけではなく、また一つ輪が広まって関連した研究をしてくださっていることを大変うれしく思っている。

静岡新聞の『デジタル化の落とし穴』という評論に『スマホ脳』という本の中身について書かれていて、視力、睡眠、体力以外にも、集中力が落ちるとか、精神的に『うつ』になる子供が多いというようなことも指摘されている。

今年から1人1台パソコンが整備され、子供たちがデジタル機に接する場面が増えた。これはもう避けることができないことだと思う。デジタル機器と上手につき合っていくということは大事なことだし、受け入れるしかないこと。そして、そういう中で問題になることがあれば、私たちが考えていかななくてはならないと思っている。特に、乳幼児期も含めて子供のころからデジタルと接すると、大人とは違った危なさもついてくると思うので気にしていきたい。

社会教育課で管轄をしている青少年健全育成についても、『ゲーム障害・ネット依存』に取り組んでいただく。いろいろな部署で一つのテーマについて、関連し合って考えていくことは大事なことだし、有効だと思っている。

御前崎市教育振興基本計画、教育大綱を少し改定した。重点施策の1、『子どもが育つ基盤づくりを進めます』の中の(2)『人としての根を養うための、市の特色を生かした教育の推進』にある4項目、『読書』、『自然体験』、『ゲーム障害・ネット依存防止』の関係、『地域とのつながり』が大切にされていけば、子供たちの健全な育ちに繋がっていくのではないかと思っている。読書については、学校図書館の図書司書や担当の先生が学校図書館の整備に取り組んでくれている。各学校、図書館の貸出数が年々増加をしている。自然体験については、社会教育課に『御前崎クエスト』という、学校・学年の枠を超えた自然体験のメニューがあり、活動は4月から始まっていて、今年は50人以上の子供たちが参加してくれている。

スクラムスクール運営協議会も、いろいろな立場の方が参加してくれている。いろいろな意見を出して

いただきながら、子供たちがトータルとして健全に育っていければ本当に嬉しいと思う。今年度も御協力をよろしくお願い致したい。

2 学校教育課より（鈴木秀和 学校教育課長）

○「スクラム御前崎」の背景

子供たちを取り巻く環境が変化している。それに伴い、人とかかわることが上手くできない子供たちも増えてきている。こうした現状を踏まえ、社会全体で子供を育てると共に、「子供たちの学びと育ち」を途切れないようにする仕組みとして、スクラムスクール運営協議会を設置した。

○「スクラム御前崎」

園・学校、家庭、地域、産業界、各団体、行政等が協働し、「郷土を愛し未来を創る人づくり」を推進する取組を「スクラム御前崎」と呼んでいる。園、小学校、中学校、高校を一つの学校と捉え、途切れのない教育を推進する縦の連携を本市では大切にしている。また、このスクラムスクール運営協議会で、園・学校・家庭・地域・産業界・各団体・行政の横の連携を推進している。

○今年度の取組

- ・今年度は、学校単位で行う「学校スクラムスクール運営協議会」と、市全体で取り組む「御前崎市スクラムスクール運営協議会」を開催する。
 - 「学校スクラムスクール運営協議会」（兼：学校運営協議会・学校評議員会）
学校経営方針の説明・承認。学校・家庭・地域で連携して解決する各校の子供たちの課題を共有し、方策を協議する。
 - 「御前崎市スクラムスクール運営協議会」（兼：市P連）
スクラムグッドマナー運動を実施する。（毎月10日）
学校スクラムスクール運営協議会で協議した内容を共有する。
「早寝・早起き・朝ごはん」の推進を継続。特に、「早寝」を推進するために「ゲーム障害・ネット依存」を、子供たちの課題として取り組む。
 - ・全国学力・学習状況調査（小6、中3）、標準学力調査（小2～小5、中1、2）で、学力との相関関係を分析し、リーフレットで公表する。
 - ・各小中学校・情報モラル研修
学校スクラムスクール運営協議会講演会（浜松学院大学の今井昌彦教授）
「ゲーム障害・ネット依存」
 - ・「スクラム御前崎の集い」
令和3年10月30日（土）13:30 東北大学 瀧 靖之教授の講演
テーマ「脳科学から見た過度のメディアとのかかわりの危険性」
- 「元気な心と体をつくる睡眠指導」について（市内小中学校の養護教諭の取組）
養護教諭は、スクラムスクール運営協議会で話題にしている「ゲーム障害・ネット依存」の問題と「睡眠」の在り方について、私たちとスクラムを組んで、調査研究を進めてくれている。養護教諭の取組や研究成果を聞いていただき、子供の成長を支える私たちは、「ゲーム障害・ネット依存」の問題にどう向き合っていくべきか、一緒に考えたいと思う。

3 睡眠に係る調査研究報告（御前崎市養護教諭研修会：発表者 第一小 松下真実子先生）

◆『元気な心と身体をつくる睡眠指導』

○御前崎市小中学校の実態

保健室で度々耳にする睡眠に関する気になる発言から子供たちの睡眠習慣に課題を感じた。

令和2年2月（令和元年度）各小中学校、1学年60名以上 計850名を対象に睡眠時間について一斉調査を実施。（資料参照）

○御前崎市の子供の健康課題・・・幼少期からの基本的生活習慣が身につけていない層が厚い。

- ・必要な睡眠時間が取れていない
- ・生活リズム（睡眠のリズム）が整っていない
- ・メディアの使用時間が長い

そこで、研究会では、生涯の基盤となる基本的生活習慣を身につけ健やかに成長してほしいと思い、

- ・必要な睡眠時間をとれるようにすること
- ・規則正しい生活リズムを幼少期から身につけること
- ・メディアの使用をコントロールできるようにすることを目指して、取組を始めた。

○取組の柱

① 具体的でシンプルな行動目標を示す。

- ・小学生に必要な睡眠時間は、9～10時間
- ・中学生に必要な睡眠時間は7～8時間
- ・寝る1時間前にメディアの使用はやめる

② 時間をかけ、「当たり前なこと」として浸透するように、繰り返し、『睡眠の役割や不思議・規則正しい生活のリズムの価値』を伝え続けるようにする。

- ・手だて
 - ・睡眠だより「すくすくすくらむ」
 - ・睡眠検定+睡眠強化週間
 - ・デジタル睡眠紙芝居
 - ・睡眠掲示板
 - ・体育の授業とコラボ
 - ・新学期生活リズムチェック

○令和元年～2年の取組み後の結果と変化

・睡眠時間の分布をみると

殆どの学年で変化は見られなかった。（数分の変化しか見られなかった）

ところが、子供や保護者の発言や感想に注目すると、睡眠や生活リズムへの関心は高まっていて、家族ぐるみで早寝早起きに家族で取り組んでいたりと、睡眠の価値を実感するという意見をもらったりしている。それがどうして、数値に表れないのか。そこで、調査時の睡眠時間を詳しく見ることにした。

平均値には、表れないが、睡眠時間を増やしている子供が確実にいた。

・メディア使用時間をみると

長時間使用層のボリュームが増え、はっきりとしたピークがなくなっている。使用時間が短い子も一定数いる一方で、長時間使用している子がかなりいる。全ての学年で明らかにメディア使用の時間は増えていた。メディアの使用については、全ての学年で、長時間化が見られ、低年齢になるほど、長時間化が顕著。メディアの使用時間に歯止めがかからなくなっていることが懸念されている。新たな課題である。

○課題と現在の取組

・課題

行動変容に至らない層があること。コロナの影響かわからないが、メディアの使用に歯止めがかからない。

- ①子供が主体性をもてるか？！
- ②個別指導が必要な子がいる
- ③家庭への働きかけはまだ余地がある

・取組

1 実感や主体性を育む

- ①睡眠と体調を関連付けて考える（睡眠時間とメディア時間、その日の調子や気分を記録）
- ②自分で時間をコントロールする力を身につける（寝る時間を決め、帰宅後の時間を自分でPDCA）
- ③通じて生活リズムを振り返る（学期初めの生活リズムチェックを通年式に）

2 個別指導

- ④不登校傾向、別室登校の児童生徒（昼夜逆転生活の解消 生活記録表）
- ⑤保健室によく来る睡眠時間が短い子（生活リズムと睡眠の大切さを指導 デジタル紙芝居を活用）

3 家庭への更なる働きかけ

- ⑥調査（子供の睡眠に対する意識調査）
- ⑦情報発信（子供たちへの指導と同じ内容 HP・たより・参観懇談会）

※ 子供たちの健やかな成長のため、スクラムスクール運営協議会の皆様と一緒に考えていきたいと考えています。御意見やアイデアを是非教えてください。

4 指導・講話

中村美智太郎 静岡大学教育学部准教授

養護教諭の講話を聴いて、御前崎の未来は明るいと感じた。コロナ禍、粘り強く分析し、結果を伝えるということに敬意を表する。

生活習慣を身につけるといふ言葉がある。習慣という言葉は、道徳の語源の一つ。道徳という言葉は、モラルという言葉の翻訳した言葉。モラルという英語は、ラテン語のモーレスという言葉からきたもの。モーレスという言葉は、習慣を身につけて生きていくという意味合いがある。道徳の元々の意味は、基本的な生活習慣を身につけるといふこと。体育の時間と連携して行ったということだが、道徳の時間にも利用できるのではないかと。道徳には、習慣・慣習という意味がもともとあるので、その時間をうまく利用すると、習慣を身につけるといふ点で、押しつけがましくない道徳になるのではないかと。

今、コロナという言葉は、毎日よく聞く。コロナが怖いというより、細菌に感染するのが怖い。何かから何かにつられてしまうことが怖いということ。よく考えてみると、教育は感染することをポジティブにとらえてきたことだったのではないかと。学校の先生が熱意をもっていろいろなことを子ども達に伝える。すると、子ども達は、熱意や関心のもとに感染するかのように勉強や生活習慣を身につけていく。極端にいうと教育は感染である。

御前崎の教育で育った子供たちが、御前崎でいい意味で感染して、御前崎のために生きていくということが可能になるためには、このスクラムの取り組みが重要になる。

スクラムスクール運営協議会の趣旨は、今の子供たちが抱えている課題をみんなでスクラムを組んで解決していこうというもの。

今までは全体として、『あいさつ運動』、『グッドマナー運動』、『早寝・早起き・朝ごはん』等を学校・地域で実行してきた。良さは、市全体の状況を共有できるということ。各学校レベル・地域レベルでやろうとすると全体が見え難くなる。市全体の状況確認をするとともに市全体の状況の課題の共有ができる。これは、大きなポイントである。分科会では、それぞれの状況を協議しながら確認できる。今年度は、それが難しいということで、各学校スクラムということになると少し状況が異なってくるかもしれない。

これまでの学校評議員会という形だと、学校の活動について評価をする、校長先生の諮問にお答えするということがあるかも知れない。学校運営協議会となると、学校、地域、保護者が、協議しながら決め、承認していく。(最終的には、学校が決めていく)そこで決めたことは、責任も共有することになる。合意したことについては、学校のみでなく、みんなで責任をもって、役割分担をして実施していく。それは、法律に基づいた正規の会議での決定になるので、極めて政治学的にも重い。今後、学校スクラム運営協議会というところで、各学校・地区レベルで協議しながら、『自分達の学校の子供たちには、どのような手立てが有効なのか、どのような対応をしていけばいいのか』という形で議論していくと、思わぬところで、意見やいろいろな解決策が見えてくることもあるかもしれない。いろいろな意見を出し合っていくことは、スクラムスクール運営協議会の意義だし、これから、予測不可能な課題を抱えている中では、みんなで協議しながら決めていくということが、最善の手立てだと思う。この文化を根付かせながら、議論を展開して行って欲しい。

幼児期の生活リズム・生活習慣リズムを身につけるには、相当、親が頑張らないと大変。子育ては楽しいが、不自由。いろいろなことを大人が我慢しないと子供中心にはならない。子供のためには、相当、大人が努力しないと、生活リズムの理想的確立が難しい社会である。その一方で、子供の意識がとても重要。啓発・やりたいというところまでもっていくのも重要。それには、親と一緒にいたり、やったりすることができる環境が必要。そういう状況がないとかなり難しい。大人・保護者だけに頼むのは、難しい。保護者だけに責任をお願いするのは、なかなか厳しい。そのためには、社会・会社の認識も変わっていかないと厳しい。それを受け入れるだけの社会や企業の理解・ケアがなければ難しい。社会・企業が変わらないと子供ファーストにはならない。保護者の思いもあるので、学校スクラム運営協議会やPTAへ持ち帰って、議論しながら、解決に結びつけてほしい。難しいかも知れないが、議論していくうちに、社会のとらえ方とか、企業の対応とかが変わっていくかもしれない。議論しながら、解決に結びつけていくという文化を御前崎から発信して行ってほしい。